

「ふくしのまちづくり講座」特集号①

「ふくしのまちづくり講座」とは?

「ふくしのまちづくり講座」は、校(地)区単位で講座を開催し、参加者が改めて地域のことを学んだり、活動者との交流を行うことにより、地域福祉活動(ボランティア)への関心を高めてもらうことを目的としています。また、これらを通して、地域で活躍していただける新たなボランティアの発掘を図る講座となっています。

小倉北区・到津校区

「防災はふだんのくらしから」

～いざという時のために今できること～

「福祉で取り組む防災」をテーマに、改めて自分たちの校区とそこに住む人達を見つめ直し、地域の防災力を高めるために今できることについて考える講座を実施した。板櫃川の氾濫を経験する校区の皆さんは大雨や台風等の水害に関する関心が高く、北九州市立大学の村江史年先生による講義では、多くの質問が飛び交った。

グループワークでは各町内に分かれて、大きな世帯地図に75歳以上の高齢者、町内会長、民生委員、福祉協力員の色別シールを貼って見える化し、災害時の危険箇所や避難する際に気を付けることについて話し合った。

この講座を通して、町内の特性に合わせた対応の大切さや、緊急時に備えた日頃の見守りや顔の見える関係づくりが重要であると改めて学ぶことが出来た。



小倉北区・西小倉校区

わたしたちのまち 西小倉校区の 「見守り・助け合い・話し合い」のしくみ

～みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり～

西小倉校区では、みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを進めるため、これまで取り組んできたふれあいネットワーク活動(見守り・助け合い・話し合い)の見直しと、日常のちょっとした困りごとを住民同士で助け合う仕組み「地域生活支援活動推進事業」に取り組むことになった。

今回の講座では、この事業の先進地区である若松区の高須地区社協の皆さんをお招きし、これまでの取り組みの経緯や成果などについてお話いただいた。様々な福祉課題に向き合い、実践されてきた活動者の具体的な話はとても参考となるもので、困っている人を地域全体で支え合うまちを目指そうという思いが参加者全員で共有することが出来た。



小倉南区・徳力校区

「逃げ友をつくろう!もしもの時、あなたはいつ避難する?」

災害に強いまちづくりをテーマに3日間の研修を行った。開催前に地域の方々たちとまち歩きを行い、校区の危険箇所を洗い出して、話し合いを実施した。講座1回目は、防災マップを参考に課題や問題点を書き出し、防災・減災の目で校区を概観した。2回目は、『災害が起こった時、あなたはいつ誰と、どこに逃げますか?』と題してグループワークを行い、3回目は、『徳力版防災マニュアル』を作成した。まち歩きでの危険箇所の確認は、住民が町内の現状を改めて知り、考えるきっかけとなり、身近な問題として、住民意識の向上につながった。



戸畑区・大谷第一地区、大谷第二地区

「地域の健康を守ろう」

地域の健康を守ろうというテーマで3日間の研修を行った。前半は、簡単にできる体操をして身体と頭を動かし、後半は、コロナ禍でのこれからの地区活動をみんなで考えた。参加者からは「久しぶりに体を動かして楽しかった」「心が洗われた、元気になった」などの声や「サロン活動も色々あり参考になった。早くコロナが終息してほしい」「手さぐりの中、良い方向に向かっていっていると思う」など、前向きな意見が聞かれた。久しぶりの地区の集まりで、笑顔で楽しそうだった。地域住民がこれからのことを考える良い機会になったと思う。



シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」③

コロナ禍で思うこと。 学生の取り組み。

北九州市立大学
地域共生教育センター特任教員

てし が ぼる わたる
勅使河原 航 さん



新型コロナウイルスが流行し、様々な社会活動が停止を余儀なくされました。地域活動やイベントが延期・中止となり、私が大学で担当する地域創生実習も影響を受けています。私は、「高齢化が進む団地でのコミュニティづくり」や「小学校等での学習支援」等の実習を担当しています。今回のエッセイでは、コロナ禍での学生の実習活動をご紹介します。

●コロナ禍でもできることを「手作り防護服づくり」

新型コロナウイルスの影響で、通常の実習活動ができない時期もあり、正直頭を悩ますときがありました。地域の小学校や福祉系の団体等に現状を伺うと感染症対策として、防護服のニーズがあることがわかり、学生たちと「コロナ禍でもできることを」を合言葉にポリ袋でできる手作り防護服を制作しました。もちろん、三密を避けるなど感染予防対策の上、取り組んでいます。制作した防護服は、希望する小学校や特別支援学校、2020年7月豪雨で被災した福祉施設にも提供しました。



●学生から高齢者へ手紙「手紙でつながりを実感」

高齢化が進む団地のサロン活動等に学生が参加していま

す。新型コロナウイルスの影響で活動が中止となる時期もありましたが、地域の方からアイデアをいただき、集わずともつながりを実感できる手段として、学生から高齢者へ手紙(サロン紹介など)を送ることになりました。後日、高齢者から「手紙が嬉しかった」と話があり、自粛期間中の励みになったそうです。この活動を通して、会えなくても誰かの心の支えになれることを地域の方から学生共々、教わりました。

●高齢者向けスマホ講座「スマホマスターになろう!」

この活動も実習先の地域の方からの提案で始まり、学生は感染予防に徹しながら取り組んでいます。講座の内容は、スマホの基本操作やLINE操作・アプリ紹介など、学生が高齢者から実際に受けたスマホ相談の内容を参考に考えています。

最後に...

「コロナだからしょうがない」と活動を停止することや、活動のあり方を見直すこともありますが、地域の皆さんの知恵をいただきながら、「こんな仕方がある」そんな新たな活動や体験が生まれています。日頃、お世話になっている地域の皆さんへ感謝の気持ちを忘れず、これからも地域の皆さんと一緒に話し合いながら、学生たちと考え、活動を続けていきたいと思っています。

ボランティアコーディネーター研修レポート

8月20日に「ボランティアコーディネーター研修」を開催しました。今回の研修は、福岡県緊急事態宣言の発令のため、オンラインセミナーに変更して開催しました。研修の前半は、「ボランティア活動について」と「ボランティアコーディネーターとは」の講義を行いました。後半は「ボランティア受入のコーディネーションについて考える」をテーマとして、ボランティアの受入先である医療法人共和会 老健部・連携広報部 井上部長にご講義いただきました。講義では、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮したボランティアの受入や、活動が軌道に乗るまでの施設側での努力や工夫について、丁寧にご説明いただきました。

受講者の方々からは、「ボランティア受入にあたり、経験談や失敗談を交えた講義を拝聴したことにより、受入の手順や押さえておくべきポイントを理解することができた。」「実際に行っているボランティア活動の写真や事例の紹介もあり、大変参考になった。」「などのお声をいただきました。

今後も、withコロナの時代においても、継続して受講者のニーズに合った研修を提供できるよう工夫を重ねていきます。



オンライン研修風景